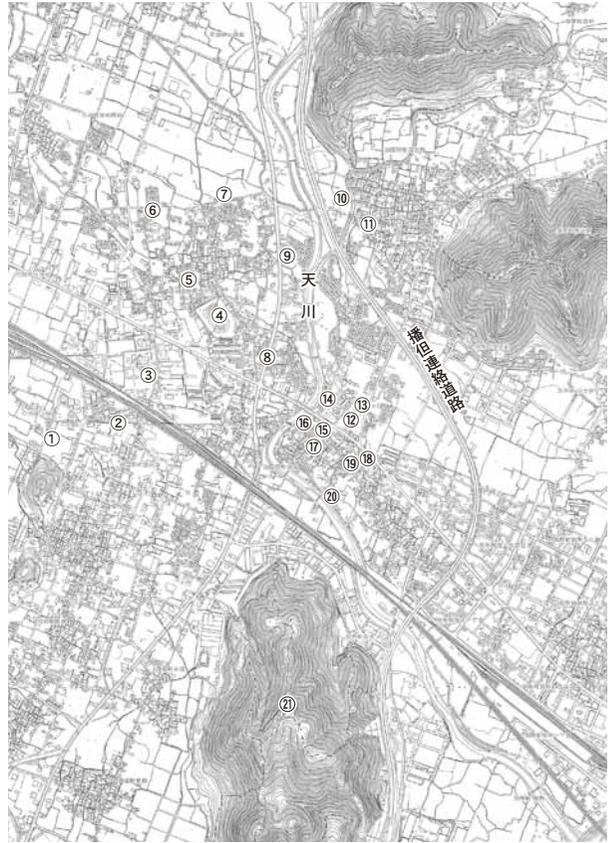




『御国野地区』をたずねて

御国野地区は、姫路市の東南部天川流域に位置し、御着、西御着、国分寺、深志野の4つの地域で構成されます。御国野町の名前の謂われは、「御着」「国分寺」「深志野」の大字から1文字ずつを取り合成したものです。御国野地区は、壇場山古墳、国分寺などを有し、古代の姫路地域というより播磨地域の中心地でした。中世になっても、東播磨の別所氏、西播磨の宇野氏とともに中播磨を支配する小寺氏の居城御着城を中心に大変栄えた地域でした。



①御幸通りと御幸橋

西御着公園西から元取山に向かう幅約2mの道を御幸通りといいます。これは明治36年(1903)11月陸軍大演習に明治天皇が行幸されたことによります。南に約30m入った水路にかかる橋を御幸橋といいます。また、四郷地区に入りますが、元取山頂上には明治天皇駐蹕碑があります。

②旧山陽道と一里塚跡

古代五畿七道のうちの一つで、太宰府に通じる道を山陽道といい唯一の大路でした。古代から中世では高木の松ヶ瀬で市川を渡っていましたが、もう少し北のルートでしたが、近世になると別所町佐土から御着、四郷町山脇と南のルートに変更されました。西御着には近世山陽道の一里塚がありました。現在は記念の標柱が立てられているだけで、その様子を見ることは出来ません。



御幸橋



山陽道一里塚跡



国分寺と七重塔の塔礎



宝篋印塔

③播磨国分寺(国指定史跡)

国分寺には僧寺と尼寺があります。国分寺といえば一般に国分僧寺のことをいいますが、正式には「金光明四天王護国之寺」といいます。総本山は山城国の国分寺である東大寺です。

天平13年(741)、聖武天皇は鎮護国家をめざして、各国に国分寺建立の詔を出し、「最勝王教」を塔に安置し、毎月8日に「最勝王教」「妙法蓮華経」を転読すること等を定めました。そのため、僧20人を定員として、封戸50戸と水田10町を施入しました。これを請け各国に国分僧寺と国分尼寺が造られました。国分寺前の広場東側に七重塔基壇が残されています。土盛りの廻りは瓦で整備され塔心礎や礎石が

配置されています。七重塔基壇の北側には伽藍配置が示され、西側には築地塀が再建されています。南面する本堂の東側に宝篋印塔(県指定文化財)があります。二重の基壇の上に166.3cmの大きさで造られています。造立時期は、南北朝末の1390年頃で、塔身の奉籠孔には宝篋印陀羅尼が納められていました。

④壇場山古墳(国指定史跡)

壇場山古墳は、場山、上山、霞野の千壺などとも呼ばれている5世紀中頃の周濠を持つ前方後円墳です。大きさは全長142.8m、後円部の直径は83mもあり、兵庫県下では神戸市の五色塚古墳に次いで、篠山市の雲部車塚古墳とともに第2位の大きさです。被葬者は一説に稲背入彦命とありますが、確かな証拠はなく、姫路地方で大きな勢力を持っていた首長であったと考えられます。前方部頂上から



壇場山古墳の石棺と西側の陪塚

から円筒埴輪の欠片が採集されています。また、後円部頂上部に主軸と直角に交差するように凝灰岩製の「組合式長持形石棺」が露出しています。石棺の蓋は長さ3.1m、幅1.5mもある大きなもので、前後左右に各2個ずつ縄掛突起がついています。壇場山古墳は正式な発掘調査がされていませんが、石棺付近から刀剣や甲冑の破片と思われる鉄片が発見されています。

5世紀中頃の古墳の特徴に、前方部と後円部の境付近麓に祭礼を行う方形の造出が造られました。壇場山古墳にもこの造出が西側に見られます。陪塚はかつて10基ほどあったといわれていますが、現在は西南隅に1基、東側民家の庭に1基の計2基が確認されているだけです。

⑤山之越古墳(国指定史跡)

山之越古墳は、五段山とも小山古墳とも呼ばれる方墳で、南辺は56m、東辺は54mあります。方墳は新羅系の人々の墳墓ともいわれ、兵庫県下では三田市、加西市と合わせて3基しか確認されていません。明治30年(1897)和田千吉氏によって発掘され、石棺内から遺骸と鏡、勾玉、刀剣が出土しました。現在頂上部に凝灰岩製の組合式長持形石棺の一部が露出しています。石棺は主軸を南北にして埋葬され棺蓋は長さ2.3m、幅1.3mの蒲鋒形で左右に各2つの円形の縄掛け突起がついています。



山之越古墳

古墳にはいろいろな形がありますが、基本となる形は円墳と方墳です。これを組み合わせた前方後円墳は日本の古墳の特徴的な形です。現在の姫路市域には、この他に安富町塩野に六角古墳があります。姫路市以外も含めてみると、前方後円墳の変形である帆立貝式古墳、前方後方墳、双方墳などの他、天皇陵に用いられた八角形墳や上円下方墳などがあります。

⑥国分尼寺跡

国分尼寺は、国分僧寺とセットで造られました。国分尼寺の正式名は「法華滅罪之寺」といいます。国分僧寺と同じように国分尼寺でも「最勝王教」や「妙法蓮華経」の転読が定められ、10尼がおかれ水田10町が施入されました。国分尼寺は廃れ、現在国分尼寺跡の説明板と参考地の碑が建てられています。この北側に池があり、この池を毘沙門池(通称、尼ヶ池)といいましたが、現在は埋め立てられています。また、金堂跡とともに国分寺の瓦と共通点の多い瓦も多く発掘されています。ちなみに総国分尼寺は、奈良の法華寺です。



国分尼寺跡説明板と参考地碑

⑦有馬街道一里塚跡

姫路から東に六甲の谷間を通り京都への近道が有馬街道です。この有馬街道は、国分尼寺跡の北側を東西に走り深志野に続いています。国分尼寺跡から少し東に行った所に一里塚がありましたが、現在は宅地造成が進み、その跡は分からなくなっています。

⑧国分寺台地遺跡

国道2号線御国野交差点の北側、県道397号線の一部がコンクリート舗装になっています。この場所が国分寺台地遺跡です。弥生時代等の土器や石器が多く発掘されました。現在、遺跡面を保存するためコンクリート舗装になっています。

⑨国分寺構居跡

県道397号線が旧有馬街道と交叉する南に円形になった田がありました。ここが国分寺構居跡です。御着城の枝城で、原田某の構居であったと言われていますが、建築年代など詳しいことは分かっていません。現在開発が進み、南東隅にわずかに堀跡のL字型の田が残るのみになっています。



国分寺構居堀跡のL字型の田

⑩真福寺石棺仏

真福寺入り口に2基の石像があります。西側にあるのが阿弥陀像で、東側にあるのが地藏像です。いずれも竜山石の家型石棺の蓋石に刻まれています。阿弥陀座像は、二重光背形輪郭の中に掘られ、銘文によると大永7年(1527)二親の為に造立されたものです。地藏立像にも銘文がありますが、風化が進み判読できません。しかし、形状等から天文年間(1532～1555)頃の造立と考えられています。また境内に江戸時代後期の造立と思われる十三仏塔もあります。



真福寺の石棺仏



深志野の地藏立像

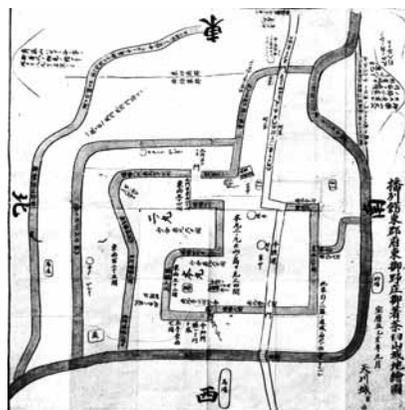
⑪深志野の地藏立像

深志野集落に東面して地藏堂があり、その中に板状の竜山石に刻まれた地藏立像があります。銘文には地藏法華妙典一千部供養のための造立であることと年代が刻まれているようですが、造立年代は判読できません。しかし、その形状から天文年間(1532～1555)頃の造立と考えられています。

⑫御着城跡

御着城は茶臼山城とも天川城ともいいます。永正16年(1519)小寺政隆によって築城されたといわれています。以後、小寺家が中播磨の覇者としてこの地を治める拠点となりました。荒木氏、別所氏のなどの叛乱に与し、秀吉に敵対したため、天正7年(1579)秀吉によって攻められ落城しました。この時の城主政職は浪人となっていました。現在では姫路市東出張所の辺りが本丸跡で、グラウンドになっている辺りが二ノ丸跡ですが、当時を偲ぶものは残っていません。東北隅の堀跡のL字型の田も見られなくなっています。

現在、東出張所南に黒田官兵衛顕彰碑が建てられています。



御着城絵図(天川圭一氏所蔵)

⑬石橋(天川橋)

旧山陽道が天川を渡るため橋が架けられていました。古くは土橋であったと言われていたが、文政11年(1828)、生石村の石工瀬助と仲右衛門を責任者として、木橋を思わせる反りを持つ美しい石橋に架け替えられました。昭和47年(1972)9月の洪水で石橋は折損しました。そのため、現在、姫路市東出張所の北側に移転復元されています。天川橋を賛美する詩が標柱に残されています。

詩文は「誰命天川名 豈問支機在 虹梁飛架空 昂々浮霞彩
截漸々之石 驛路度千載」です。



移転された天川橋

⑭黒田家廟所(市指定史跡)

黒田家廟所は南面した木造廟屋で2基の五輪塔があります。これは筑前国福岡藩主の黒田家が建立したものです。向かって左が黒田重隆、右が職隆夫人の墓標で、高さは159.4cmと159.1cmの五輪塔になっています。五輪塔の正面に、戒名・没年月日・氏名が書かれています。正面の5文字には

金箔が施され、基礎の法名には朱が残っています。黒田職隆の五輪塔は妻鹿にあります。黒田家はその後筑前国の藩主になったので、いずれも「チクゼンサン」と呼ばれ地元民に親しまれています。黒田家廟所入口に黒田家の家紋「藤巴」も刻まれています。



御着の黒田家廟所

⑮小寺大明神

黒田家廟所の南、歩道橋を渡った繁みの中にあります。小寺政隆、則職、政職の三城主が祀られ、「天川城址小寺城主奥津城」と刻んだ碑もあります。



小寺大明神と小寺氏奥津城碑

⑯徳證寺

徳證寺は、寺伝によると国分尼寺で、毘沙門池の畔にあったといわれています。元は真言宗でしたが、明応5年(1496)春住尼妙法が蓮如上人の法話を聞き真宗に帰依し、帰国後、国分寺村内に寺を移転しました。現在地には小寺政隆の子則職の時代に移されました。

⑰山陽道御着宿

街道を旅する者に必要なものとして宿場があります。宿場の起源は古代の駅伝制の整備に伴う駅家うまやの設置にあります。近世の宿場は、徳川幕府による街道の整備によって進められました。御着は近世山陽道の宿場町として栄えました。



徳證寺

延命寺の板碑

⑱延命寺の阿弥陀一尊種子板碑

延命寺は、承和年間(834~848)天台宗の円仁慈覚大師によって開基されました。明治18年(1885)明治天皇が山陽道巡幸された時、延命寺で休息されました。そのため寺の入口に「明治天皇御着 小休所」の記念碑が建てられています。本堂北西隅に、貞和元年(1345)の阿弥陀一尊種子板碑がぢりんがあります。高さは120.3cmで、左肩が少し欠けています。月輪の中に刻まれた梵字はキリクで、阿弥陀如来を表しています。

⑲大歳神社

大歳神社は大歳神(年神、農業神)を祀った神社で、「大年」とも書きますが、同じ神さまです。しかし、祭神の大歳神は「大歳御祖神」「御歳神」「豊宇気比賣尊」などを大歳神として祀っていますので、同じ神さまとは限りません。境内には、「八王子神社」「愛宕神社」「大国神社」「天満神社」の四摂社があり、クスノキの保存樹もあります。



大歳神社鳥居

⑳大榎と庚申堂

天川の堤防に大榎と庚申堂があります。榎は樹齢600年とも700年とも言われ、姫路市の保存樹に指定されています。その榎の下に庚申堂があります。庚申堂は庚申の青面金剛しょうめんこんこうを祀った社です。庚申堂横に、河川敷が住宅地になったことを記念して「廃川乃碑」が建てられています。この碑は国道2号線旧天川橋の擬宝珠で造られています。



庚申堂と廃川乃碑

㉑榎山(火の山)

鉄工団地の南に接する山を「榎山」といいます。この山名の由来は、神功皇后が麻生山で天神地祇を祀られた時、神火を掲げられたことから「火の山」というといわれています。また、天智2年(663)白村江の戦の時に定められた烽火伝達の山で、京見山から受けた烽火を加古川の日岡に送ったともいわれています。